

棚田のナスヒオウギアヤメ

栃木県那珂川町 菊池 榮

今から二十年ほど前、県外の会員様より、「ナスヒオウギアヤメを探しているのですが、手に入らないでしょうか？」と照会を受けて、那須方面を探したところ、那須塩原市（旧黒磯市）鍋掛（なべかけ）の園芸業者が「自宅の庭に植えてあるので、分けてあげましょう」と言ってくくださったので、後日、出直して行って受取ったのが、私とヒオウギアヤメの出会いの始まりでした。

最初は、自宅近くの畑に植えて、



棚田にて筆者

充分灌水したところ、活着して徐々に大きな株になりました。その後、三年ほど経ってから、沢の奥の棚田に植えたところ、湿田は適しているようで、株の生育が旺盛です。アヤメキバガの被害も、畑より水田の方が少ないです。

ナスヒオウギアヤメは栃木県那須郡に自生する植物で、昭和天皇の「那須の植物誌」で紹介され、有名になりました。しかし、不稔性であるため、その自生地は極狭い地域に限られています。不稔性の原因は、種間雑種であるからと言われています。そのルーツについては、未だ解明されていませんが、キリガミネヒオウギアヤメとカキツバタの種間雑種ではないかという説があります。

葉はカキツバタより大きく、巾三センチメートル、長さ1.3メートル位となり、柔らかくしなやかです。

開花期は、五月下旬から六月上

旬頃です。花は直径七センチメートル位と小型です。色は開花直後、鮮やかな青色ですが、二日目には淡い青紫色に変化して、写真では別の種のように見えます。

手入れ方法については、特に難しいことはありませんが、私の体験に基づいて述べます。

移植適期は六月中旬から七月下旬です。苗の葉は十五センチメートル位残して切り落とした方がよいでしょう。畑では、二、三年で植え替えますが、水田では十年位経っても連作障害は出ません。畝間は九十センチメートル、株間は六十センチメートル位が草取り等の時、都合良いです。雑草は見えた

ら抜き取りますが、ナスヒオウギアヤメの葉は大きいので、根元へ日差しが少なく、雑草の発生は僅かです。仮に生えても簡単に抜けます。

他のアヤメ類は、花が終わった後、結実させないように茎を切り取りますが、ナスヒオウギアヤメは不稔性なので、その必要はありません。しかし、晩秋になったら茎葉は株元十センチメートル位残して切り取った方が、後の管理が楽です。

今後の抱負として、ナスヒオウギアヤメを絶やすことなく、大切に保存していきたいと思っています。結実する植物は種子が風や動物によって、遠くに運ばれて広い範囲に増殖しますが、不稔性のナスヒオウギアヤメは狭い範囲でしか育たず、場合によっては絶滅の虞れもあります。

最後にナスヒオウギアヤメを眺めながら詠んだ短歌を一首、載せさせて頂きます。

沢の田に

那須檜扇あやめ

青い花色

根を張りて
水面に映す

